

# 緑のカーテンコンテスト

グランプリ  
作品決定

笠間市民憲章推進協議会健康都市づくり実践活動委員会では、市民の皆さんに夏の間の節電対策として「緑のカーテンづくり」に取り組んでいただき、コンテストを実施しました。個人の部、事業所の部とあわせて14作品の応募があり、厳正なる審査の結果、グランプリに選ばれた作品を紹介します。

## 《個人の部》【氏名】市橋 昭子（稲田）【植物の種類】オーシャンブルー（琉球朝顔）

日照りが続いた時は、庭植えでも毎日、朝夕水をやり、葉が枯れたときは、ダイセンで消毒をしました。また5月に気温が低い日が続き、成長が遅くなったため、肥料を3回程度やりました。室温が他の部屋より2～3度低くなり、冷房無しで過ごせる時もあり、節電に繋がったと思います。



## 《事業所の部》【事業所名】笠間市立大原小学校【植物の種類】朝顔、ゴーヤ、ヘチマ、フウセンカズラ

真ん中に色違いの朝顔とフウセンカズラを植え、両側にゴーヤとヘチマを植えました。花が咲いた時は、黄色とピンク、紫が並んで咲いていることを想像しましたが、今年は朝夕の寒暖の差が激しく、急激な天気の変化の影響もあり、生育がまばらになってしまいました。しかし、緑のカーテンの役目はしっかり果たしてくれました。



【問合せ】笠間市民憲章推進協議会事務局（市民活動課内 内線132・133）

## 陶に親しむ 11

### 須藤訓史（一九七六～）

須藤訓史は笠間在住の作家で、二〇〇一年に菊地弘に師事、二〇〇四年に茨城県窯業指導所を修了したのは、伊藤東彦に学びました。日本伝統工芸展や菊池ビエンナーレなどの展覧会に出品し、茨城県陶芸美術館でも二〇一二年に開催した「GEMSTONE—笠間の4人」展でその作品を取り上げ、現代陶芸の旗手の一人です。

須藤が近年取り組んでいるのが「押点文」と呼ばれる一連のシリーズです。これは無数の点描によつ



押点文器「渦」平成26年（2014年）  
高さ22.2cm×幅41.8cm

て文様を表すもので、白土をロク口で挽いた後に白い化粧土を施し、ある程度乾いてから表面に点描を押すことで生み出されます。

### 押点文器「渦」二〇一四年

本作「押点文器『渦』」は、口の部分を始点とする幾筋もの流れが、渦を巻くように外側へと伸びていくのが特徴です。点描は作品の全体に施されていますが、面白いのはそれぞれの渦の流れごとに、その大きさや密度が変えられているということ。須藤は先端が半球状の専用の道具をサイズごとに使い分け、針の先ほどの小さな点や、数ミリの大きな点、その両方が織り交ぜられたものなど、さまざまなパターンの点描表現を用いています。

流動的な渦状のフォルムと、そこに施された点描表現による多様な肌合い、二つの要素が分かちがたく結びつくことによって、作品に独自の存在感を与えているのです。

茨城県陶芸美術館学芸員 飯田将吾

※展示は11月24日（月）まで

茨城県陶芸美術館企画展  
「現代・陶芸現象」の出品作から